



『Knowledge Suite』で情報共有がスマートに、スピーディに！

福祉 社会福祉法人かたるべ会 様

障害がある無しに関わらず、社会人として普通に暮らせる社会（ノーマライゼーション）の実現に向け活動している社会福祉法人かたるべ会様では、職員全員が対面で会議を行うということが難しい勤務体制であるため、情報共有ツールとして無料版グループウェア『GRIDY』*を導入。スマートフォン利用者増加に伴い、『Knowledge Suite』に切り替えたという。

『GRIDY』導入で勤務体系の異なる職員がリアルタイムで情報共有可能に

社会福祉法人かたるべ会では、さまざまな企業からの受注作業を行う、障害者の就労支援のための作業場、障害者の自立生活のためのグループホームの運営等を行っています。常勤の職員は現在約40名ですが、作業場担当の職員は日中勤務のみ、グループホーム担当の職員は夜勤があること等から、全員が集まって会議を行うのは、非常に難しい状況にあります。日中勤務の職員は1カ月に1回、グループホーム勤務の職員は2カ月に1回、それぞれに会議を行っていますが、グループウェア導入前は、日々の情報共有は、必要に応じてメールや電話を活用するというものでした。しかし、メールや電話ですと、共有できるメンバーが限定されてしまったり、即時に全員で共有することができないため伝達に時間がかかったりということがありましたので、何かよいツールはないかと探していましたところ、無料版グループウェア『GRIDY』に出会いました。

このようなツールを使うのは、初めてでしたので、導入したいという気持ちとともに、果たしてちゃんと使いこなせるだろうか、運用は定着するだろうかという不安がありました。ですから、無料であれば、導入してみようということになったんです。

導入にあたって、職員からの反発は一切ありませんでしたが、自分が必要なとき以外PCは開かないという職員がほとんどでしたので、定期的にPCを開き、

情報をチェックするということに全員が慣れるまでには2カ月くらいかかりました。

しかし、慣れてみると、こんな便利なものはないということになり、職員全員が積極的に活用するようになりました。もちろん、現在も対面での会議は行っていますし、必要に応じて電話での連絡も行っていますが、細かいことはグループウェアを通じて日々情報共有できるようになりましたので、話が早いというか、ずいぶんとすっきりしたと思います。

スマホでも使えることに魅力を感じ『Knowledge Suite』に切り替え

ところが、使いこなしていくに従って、決まったPCからでないアクセスできないということに不便を感じるようになりました。導入前とは情報伝達のスピードが明らかに変わり、常にリアルタイムで情報共有することが普通になっていたためだと思います。そこに、スマートフォンを所有する職員が増えたという状況が後押しし、外出先のPCやスマートフォンからでもアクセスできる『Knowledge Suite』に切り替えました。『Knowledge Suite』は現在、約40名の常勤職員全員で使っていますが、内約半数がスマートフォンユーザーなので、とても便利になったと大好評です。

外出先や何か作業をしている途中でも、立ったままでも、その場で確認できて返事もできるということで、情報共有のスピードがさらにアップしました。



リアルタイムで確認可能になり、 情報共有のスピードがUPしました

(導入担当者：鈴木啓太氏)

いちばん活用しているのはメッセージ メールよりも柔軟に使えるのが魅力

無料版の『GRIDY』のころから『Knowledge Suite』になった今も、もっとも活用しているのは、メッセージ機能です。共有するメンバーを手軽に自由に設定でき、メールよりも気軽に打ち込めますし、未読・既読の確認もできるので、重宝しています。

その他、日常的に活用しているのは、トピックと施設予約です。実は、この2つは、本来想定されている使い方とは異なるだろう、かたるべ会ならではの使い方をしていました。というのも、メッセージ機能があまりにも使いやすいので、『GRIDY』を使い始めた当初は、何でもかんでもメッセージでやりとりをしていたのですが、みんなが使いこなせるようになるに従って、メッセージの量が膨大になっていき、それを確認するだけでかなりの時間をとられてしまうようになりました。そこで、改善案として、独自の利用法を検討、トピックと施設予約を活用することにしたのです。

業務内容に合わせた独自の使い方 トピックと設備予約を活用

トピックは、障害者の方々の状況共有のために使っています。障害者の方のお名前と所属施設をトピックのタイトルにして、そこに日々の様子や支援概要等を書き込むようにしています。担当の職員以外でも、気づいたことがあれば書き込むというルールを設けました。これにより、職員は、自分が担当する障害者の方の情報をより正確に把握できるようになりました。

施設予約は、服薬が必要な障害者の方の服薬管理に使っています。施設名を障害者の方が所属している施設にして、そこに所属している方の服薬時間を登録し、服薬が完了したらメモ欄で完了報告をアップするようにしています。担当者の健忘録として活用してもらおうという目的と、常に誰が見てもわかるような状態にしておくことで、気がついた人がダブルチェックできるようにという機能も持たせました。この運用を始めたのは、最近です。

『Knowledge Suite』は、多くの機能があり、それぞれに想定されている使い方がありますが、工夫次第で組織の業務内容に合わせた使い方できるので、重宝しています。まだまだ使い切れていない機能がいくつもありますが、少しずつ試しながら、今後も独自の使い方を工夫していきたいと思っています。

Outline

社会福祉法人 かたるべ会

障害がある無しに関わらず、社会人として普通に暮らせる社会（ノーマライゼーション）の実現に向け、横浜市緑区・都筑区を拠点に、1990年より活動している社会福祉法人かたるべ会。仕事（社会参加）、生活（衣食住）、余暇という生活のリズムがバランスよく保たれ、メリハリのある生活が確保されることも重要という考えに基づき、障害者の就労支援、自立生活支援を行っている。

設立年月日：1990年8月
所在地：神奈川県横浜市緑区鴨居1-8-6
代表者：理事長 平野章
従業員数：40名（常勤職員）
事業内容：障害福祉サービス事業他
URL：<http://www.katarube.com/>